

分科会 I

多様な子どもたちの育ち・学びを支える音・光環境
～センサリーフレンドリーな環境づくり～

2025年 6月1日(日) 10:00～12:00

@永国寺キャンパス (高知工科大学・高知県立大学)

発達支援の場における音環境づくりの効果 ～子どもの行動と支援者の意識に着目して～

野口 紗生

浜松学院大学・(一社)こどものための音環境デザイン

E-mail: sk-noguchi@hamagaku.ac.jp



Hamamatsu Gakuin University

背景と目的

- 子ども施設における音環境の課題：喧騒感（志村，2003），残響過多（川井，2015）
- 音環境が子どもの育ちに及ぼす影響
 - 音声言語の発達（荒井・麦谷，2016）
 - 遊びの継続や子どもの落ち着き、保育の質への影響（片川他，2021；由田他，2018）
- インクルーシブな音環境とは：音の聞こえの視点から
 - 外国籍など日本語が母語でない子ども：生活の中で音を聞くことの大切さ（篠沢，2024）
 - 音への困りごとのある子ども：聴覚過敏（坂田，2017；高橋，2024）・聴覚情報処理障害（小淵，2020）
- インクルーシブ保育の推進
 - 児童福祉施設と保育所等との併設が促進：専従規定等の緩和（厚労省，2022）

多様な子どもたちの音の聞こえを保障することが不可欠
聞き取ることができる・聞こうとすることができる

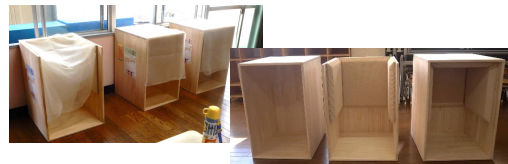
背景と目的

- 吸音効果による音環境改善効果 (川井, 2012)
- 社会的理解の拡充が課題
 - 子ども本人や保護者・支援者など大人の認識・現場での環境づくりの普及等

音環境づくりは子ども・支援者にどのような影響をもたらすのか

児童発達支援センターにおける音環境づくり実践から

① 部屋の吸音性能向上実験



② 吸音具合の異なる3つの小空間設置実験

③ 支援者向けワークショップ



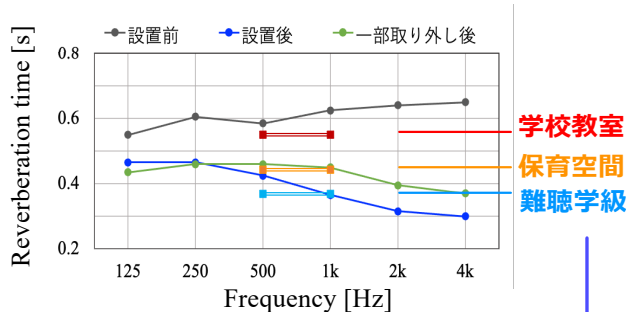
※倫理的配慮：本研究は明治大学人を対象とした実験研究に関する倫理委員会の審査を受け承認を得て実施した

3

① 部屋の吸音性能向上実験

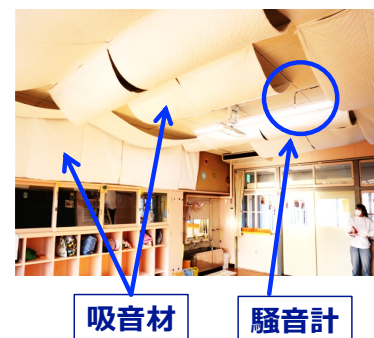
対象：年中組2クラス（A組：吸音材を設置・B組：通常状態）

園児数：各クラス11名・支援者数：8名で2クラスを担当



残響時間

*日本建築学会環境基準
「学校施設の音環境保全規準・設計指針」
で示されている推奨値相当



音環境の変化

<場面> 毎日のコアタイム（10:30～11:00）
身支度（着替え・荷物整理）、遊び、片付け

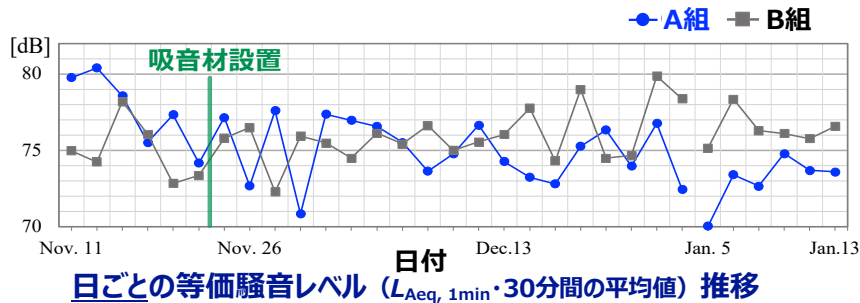
設置前
2021/11/18

設置後
2022/1/12



4

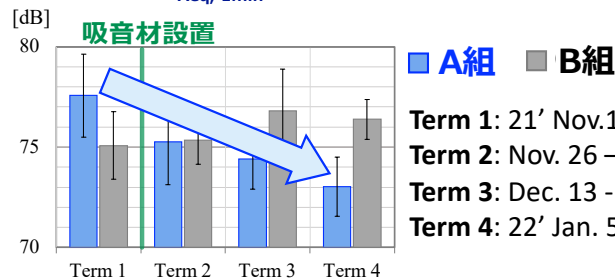
音環境の変化＜平均的な音の大きさ＞



分析対象場面

毎日のコアタイム (10:30~11:00)

身支度 (着替え・荷物整理)、遊び、片付け

期間ごとの等価騒音レベル算術平均値 ($L_{Aeq, 1min}$, 10:30-11:00)

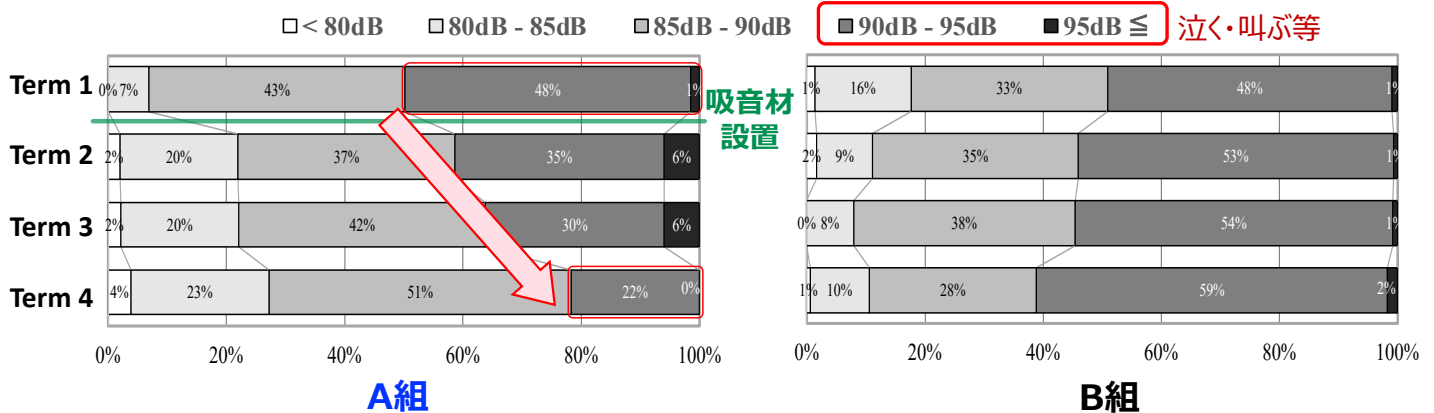
5

音環境の変化＜最大値の大きさ＞

分析対象場面

毎日のコアタイム (10:30~11:00)

身支度 (着替え・荷物整理)、遊び、片付け



騒音レベル最大値 (1分間) の分布の変化

6

このような、“吸音”による音環境の変化は、 子どもにとってどのような意味があるだろうか？



音にかかわる行動の視点で見た 子どもたちの姿から

音への
過敏反応

聞く

話す

7

音環境の改善による子どもの行動変化

音への過敏反応の減少



- ・耳をふさぐ回数が減った
- ・イヤマフを使用していた子が朝泣いてしまったが泣かなくなった
- ・バスのバック音に気を取られていた子が集中して着替えられた

必要な音に鋭く反応する姿



少し離れた場所にいる先生が子Aの名前を呼ぶと、
子Aが覗きこんで先生の方を見た

積極的に話すようになる姿



- ・設置前：大きな音を発さない
- ・設置後：大きな声で話す、明瞭な発音（「おあよう」→「おはよう」）、積極的に話しかけるように

8

支援者への影響：吸音の有無を比較する経験を通して

- 響き自体の違い・音の不快感（耳の痛みなど）の違いは認識されやすかった
- 一方、保育・支援にとってどのような意味があるのかは、認識されにくかった

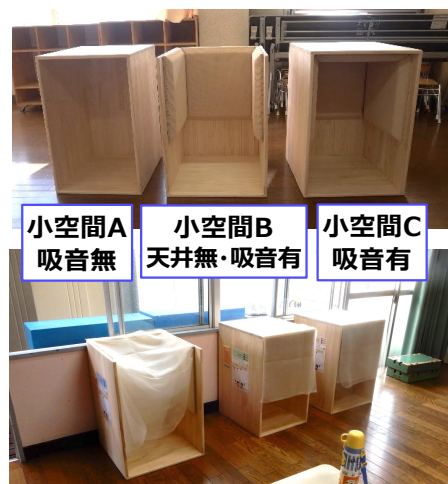
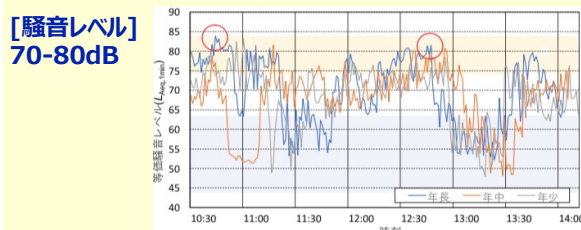
支援者X（8年目）の例

- **当初**：「明るく・元気な声」が持ち味、声が大きいと自覚している。どのくらいの声の大きさが良いのか疑問を持っていた。
- **吸音体験後**：支援の中で響かない部屋から響く部屋へ移動した時、「自分の声が大きい」と感じ、小さな声で語りかけたところ、子どもがしっかりと聞いてくれた。声の大きさより支援者が穏やかでいることが重要と考えるようになった。
- **翌年度・他施設に移動して**：手を叩いて回って響きを確認めたり、他の職員の声も気にするようになった。響く部屋では押入れのようなリラックスできる居場所を作ろうと取り組んでいる。

② 吸音具合の異なる3つの小空間設置実験

- 小空間のコンセプト：子どもが一人で入って気持ちを休める空間
- 併行通園クラス
- 園児数：各曜日9～14名
- 担当支援者：4名

〈参考〉音環境の実態

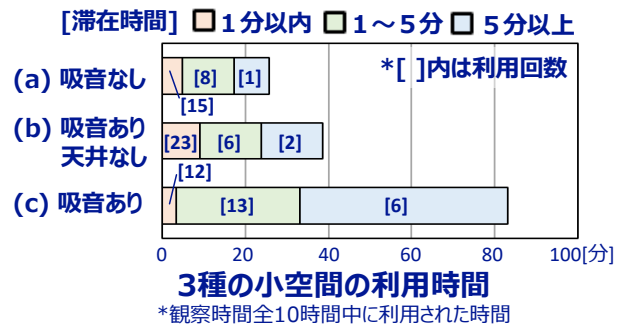


小空間の使われ方

子どもの小空間利用実態

- 初期：探索的利用（遊びなど）
- 2回目以降：徐々に必要とする子どもの利用が増加
- 中での行動：絵本を読む・感触を楽しむ・寝転ぶ等
- 聴覚過敏傾向の子どもの活用事例

活動の切り替わり時に(c)吸音ありの中に入る → 集い時に絵本の読み聞かせが始まると、集団の方向をちらっと見る → 言葉遊びが始まると、自分から出てくる → 関心を持って活動に参加する



支援者からのコメント

- 「気持ちが落ち着かない時や苦手な音がした時など活動に向かえない子どもが**自ら入って使用**していた」
- 「これまで室から飛び出していた子が**室から出ずに小空間の中で落ち着けるようになった**」
- 「**子どもが小空間の中で穏やかな表情で落ち着いていたり、ひそひそ声や音の跳ね返りを確かめて楽しむ様子**を見て、**吸音や小空間が子どもにとっての落ち着きや安心、過ごしやすさにつながることを実感した**」

11

③地域の子ども施設関係者と共に考えるワークショップの実践

子どものための音環境づくりワークショップ ～感覚の多様性について考えよう！～



第1回：音環境の基礎講座＋音体験ワークショップ

音についての感覚の多様性を学ぼう！

音環境づくりの方法を学ぼう！

*希望される方には、**お試し吸音材をプレゼント**します！

第2回：情報交換会

音の視点を取り入れた実践について、情報交換しよう！

音環境を測ってみよう！



12

参加者からのコメント例

- 音環境を変えることができた
- 子どもの困り感への理解が深まった
 - これまでは「遊びの問題」かと思っていたが、「音」の影響だったのかもしれない
 - 小空間を作ったら、落ち着いて遊べるように。その後、他の遊び（折り紙など）もやるようになった
- 子どもとの信頼関係が深まった
 - 小空間を作ったら、（担当ではないから初めてなのに）その子の寝かしつけが成功した
 - 子どもが、「自分のことをわかってくれた」と思ってくれたようだった
- （園内で問題意識を共有できたか？）職員間での認識が同じでない場合もあった

おわりに

音環境づくりがもたらす効果

- 音の困りごとのある子どもにとって、過ごしやすさ・音コミュニケーション（聞く・話す）のしやすさを支える
- 音の困りごとのない子ども、大人にとっても同様の傾向
 - 必要な音を聞きやすい、耳の痛みが少ない、等
- 支援者にとっての新たな視点の獲得：音に対する気付き

インクルーシブな環境の実現には、どのようなことが求められるのか

- 感覚の多様性について、子ども・大人が、理解すること
- 周りの環境の工夫や支援者の関わりによる改善
- 環境（音）の視点を活かした支援へ

参考文献

- 荒井隆行・麦谷綾子 (2016). 子どもを取り巻く音環境と音声言語に関わる発達について. 日本音響学会誌, 72(3), 129-136.
- 片川智子・由田新・野口紗生・上野佳奈子・川井敬二 (2021). 音環境と保育実践との関わり. 建築音響研究会資料, AA2021-19.
- 川井敬二 (2012). 保育空間における喧噪な音環境に対する室内吸音の効果の検証. こども環境学研究, 8(2), 58-64.
- 川井敬二 (2015). 保育所等における音の問題. 騒音制御, 39(3), 58-62.
- 厚生労働省 (2022). 厚生労働省令第159号.
- 日本建築学会 (2020). 日本建築学会環境基準 AIJES-S0001-2020 学校施設の音環境保全規準・設計指針. 丸善出版.
- 小淵千絵 (2020). APD「音は聞こえているのに 聞き取れない」人たち -聴覚情報処理障害 (APD) とうまくつきあう方法. さくら舎.
- 坂田俊文 (2017). 聴覚過敏の診断と治療. 日本耳鼻咽喉科学会会報, 120(9), 1184-1185.
- 志村洋子 (2003). 幼稚園・保育所における保育室内の音環境—コミュニケーションを支える音環境—. 騒音制御, 27(2), 123-127.
- 篠沢薫・野口紗生 (2024). 音環境を活かした保育へ—多様な子どもたちの育ちを支える音環境. 園と家庭を結ぶ げ・ん・き, 206, 70-79.
- 高橋秀俊 (2024). 感覚の困りごとへの心のケア：センサーフrendリーをめざす支援の実践. 岩崎学術出版社.
- 由田新・片川智子・野口紗生 (2019). 保育室の音環境と保育者のかかわりとの関係Ⅲ—保育者の保育行為への意識の変化に着目して—. 日本保育学会第72回大会発表論文集, 1289-1290.